2015 年 1 月 15 日　第 1 回ピーストレード講座報告

しんどさ，楽しさ，すべてをシェアする人たちと出会って

――カメルーンの熱帯雨林に住む狩猟採集民の子育て――

講師：伊藤早織（札幌 YWCA 理事・北海道大学大学院保健科学院修士課程）

私は北海道大学理学部地球科学科を卒業し，現在は北大保健科学院修士課程に在籍しています．学部生の頃はサンゴ礁地球環境学の研究をしていました．大学 1 年生のときに札幌 YWCA で活動を始め，次第にアフリカの女性や子どもたちがどのような生活をしているのか自分の目で確かめたいと思うようになり，現在の大学院に進学しました．

皆さんは，「育児」についてどんなイメージを持っていますか？養育費や福祉サービスなどにすごく不安を感じているのではないでしょうか．現代社会は，核家族化，地域コミュニティの希薄化によって乳児を持つ家庭が孤立し，育児負担が大きくなってきているといわれています．少子化で乳児の面倒をみてくれる兄弟・姉妹も少ない状況です．また最近は，女性の社会進出により労働者でもあり母親でもある女性が増えてきました．児童虐待も問題になっています．現代社会は課題が多く，育児に対して不安を持つ若い女性は多いかと思います．

そこで今日は，ちょっと変わった育児をしている民族のシェアする育児についてお話ししたいと思います．アフリカ熱帯雨林，カメルーン共和国に居住する「バカ」と呼ばれる狩猟採集民を紹介します．

「カメルーン」というと，大抵の方が「サッカー」を思い浮かべると思います．他はあまりなじみのない国かもしれません．

カメルーン共和国は中央アフリカに位置し，人口 2050 万人，面積は日本の 1.3 倍で，宗教はカトリックが多数です．アフリカ大陸のさまざまな風土と気候の特徴がカメルーン共和国ひとつの国の中にみられることから「ミニ・アフリカ」とも呼ばれています．ドイツとフランスの植民地時代を経て，今に至ります．公用語は北部を除いてフランス語です．首都はヤウンデです．

カメルーン共和国南東部を含む中央アフリカの熱帯雨林には自然に強く依存した狩猟採集民が生活しています．狩猟採集民は，昔は森の中で移動生活をしていましたが，1950 年代から政府や NGO による定住政策が始まり，現在は道路沿いに集落をかまえ，時に短期・長期で森に入って生活するという半定住生活をしています．

私はカメルーン共和国東部州に暮らすピグミー系狩猟採集民バカの育児について調査をしてきました．バカとは民族の名称です．ピグミーと呼ばれているように，彼らは小柄なからだを持ち，平均身長は男性で 155cm，女性で 147cm です．言語は彼ら特有のバカ語を話します．最近，オードリーの春日さんがカメルーンのバカ族の村を訪ねる・バカ族の女性を日本に連れて来るというバラエティ番組がテレビで放映されました．

バカの人たちがつくる家は，2 種類あり，ヤシ科の葉を組み合わせて作ったドーム型の家

と，土と木でつくる農耕民風の家です．ドーム型の家は，モングルという伝統的な家です．モングルは作った直後に中から煙でいぶして葉を乾かし，雨風に強い造りになっています．モングルをつくるのは主に女性の仕事であることが多いです．

バカ族の生活は，自然に強く依存しており，狩猟採集を生業としています．小川で掻い出し漁（水の流れを止めるためのダムを土でつくり，水を掻き出して小さなエビや魚を捕まえる）をすることもあります．

私の研究対象は乳児で，30 秒ごとの育児観察がメインです．

調査地までは新千歳からパリ経由で 40～50 時間かかります．首都ヤウンデからはミニバスで 12～13 時間，4 人席に 7 人くらい座ってトイレ休憩なしでロミエという小さな田舎町まで行きます．バスの上にはバナナや荷物が高く積まれて，ちょっとしたぬかるみでバランスを崩し横転することがあります．私の渡航は7月～9月でおおよそ小乾期にあたります．スコールが続くようになると，雨期に入りかけていることがわかります．ロミエから徒歩で 45 分の M 村，1 時間の S 村で調査をしました．

乳児が研究対象で，30 秒ごとに乳児の行動と養育者の育児観察をしました．乳児がよちよち歩いたりハイハイするのをひたすら追いかけ，誰が育児を担ったのか観察します．

乳児の食事調査もします．例えば，調査対象の乳児がキャッサバを持った瞬間，すかさず近づいてそのキャッサバを計量します．大抵は，ものすごく泣かれます（笑）．乳児が持った食べ物，食べずに投げてしまったもの，口からこぼしたものも，ひたすら計量します．乳児死亡率は，みなさんが想像しているほど高くはありません．乳児にとって一番の危険は，マラリアです．では，バカ属の育児がどのようにされているのか，見てみましょう．一言で言うと，「村のみんなの生活の中に組み込まれた育児」といえます．

乳児が一人で放置されることはほとんどありません．大体 1 日 1 時間程度です．常に誰かに抱かれています．

お母さんによる育児は，家事と両立することがあります．乳児を背負ってネズミ捕りなどに行きます．しかし，決して一人で狩猟採集に出かけることはありません．必ず，年長の女の子や大人の女性たちと一緒に行動します．

狩猟採集や薪割りなどに使う大型のナイフ（マチェット）を乳児におもちゃとして与える姿を見ました．早いうちに狩猟採集に使うナイフに慣れさせる意味もあるのかもしれません．私がお母さんに「危なくないの？」聞くと，「大丈夫だ」と．そして，「自分たちにとっての危険は，ナイフよりも毒や棘などを持つ動植物で，赤ちゃんを一人にしないことだ」と言います．

お父さんは，お母さんが一人で狩猟採集に行くときや，調理をするときに育児をします．乳児を抱いたり，話しかけたり．おむつはせず，自由に排泄をさせます．うんちをしたら，

年上のお兄ちゃんやお姉ちゃんを呼んで片づけさせたり，葉っぱを取ってこさせたり．赤ちゃんがうんちをしてもみんなは笑っています．食べ物をこぼしても怒ることはありません．とてもストレスフリーな育児のように見えます．

親族関係がなくても，乳児をあやしたり食事を与えたりして，みんなが集落にいる乳児のことを気にかけています．お母さんが採集活動で朝から夜まで村にいないときも，隣に住むおばあちゃんが乳児の近くにやってきてあやしたりします．

集落内で暮らす子どもたちも乳児の近くに集まります．積極的に育児に参加するのは女子が多いですが，男子も育児に参加しています．近くに学校はありますが，バカ族の子どもたちはほとんど学校に通いません．子どもたちは学校よりも森へ行く方が楽しいと言います．教育の形は多様であるべきだと思います．無理に学校へ行かせる必要はないのではないかとも感じました．5 歳くらいの子どもでも，抱っこ布を手慣れた様子で使い，乳児を背負います．12 歳くらいになると乳児を背負いながら採集活動やちょっとした火事などもして働きます．

ネズミ狩りはネズミの地面の出入り口を見つけて，いぶしたり脅かしたりして，出てきたネズミを追いかけるのですが，あるとき，誰も手が空いてないとわかるとお母さんが巣穴に赤ちゃんをはめて（赤ちゃんの上半身が地上に出ている）ネズミを追いかけていました．私がその場に残っていましたし，誰かが見てくれると信じているからです．

このように育児はみんなでシェアし，村の生活の中に組み込まれているのです．

狩猟採集民の特徴として「平等主義」があります．彼らの生業活動，すなわち狩猟採集では，蛇，ネズミ，野生のヤムイモなど様々な動植物を捕って（採って）きます．集落に持ち帰った獲物は，集落みんなの物です．小さな物でも細かく平等に分けます．捕った物を持ち帰ると，みんながお皿を持って集まって来ます．捕って来た人が平等に分けます．「これは私のものだ」とは言いません．完全な平等主義です．自分が食べている物も，近くに誰かが来ると分けます．小さな子どもも自分の食べていたものをわけます．

大型動物の狩猟活動は男性がやり，採集活動や調理は女性がするなどの役割分担や分業はありますが，楽しさ，しんどさ，すべてシェアしています．気がつけば，すべてが平等主義なのです．服も皿も鍋もシェアしています．

この平等主義が，彼らの育児スタイルのポイントです．お母さんの負担をみんなで分ける．話し合うわけでもなく，自然に平等に分け合っているのです．

地域コミュニティの希薄化，少子化，核家族化などで，いまの日本のような現代社会では難しいかもしれませんが，育児のシェアについて，皆さんでアプローチしてみてほしいと思います．

＜おまけ：食事について＞

集落では川の水や湧水を汲んで，沸かして飲んでいます．主食はキャッサバやマカボ（さ

といも）など．掻い出し漁のエビやナマズ，芋虫，最長 3m にもなる蛇，ネズミなど．ワイヤーを使った罠猟もします．現地では油分とタンパク質がほしくなりますが，その点で森の油分といわれる芋虫は最適です．丸焼きにして煮詰めたり，つぶしてソースにしたりしますが，これがとてもおいしいのです．私は，現地では何でも食べるようにしています．バカ族と一緒にいるときは彼らと同じものを食べること「共食」が大切だと思っています．

バカ族が町で買うものは塩，洋服，油，せっけんなど．お酒はみんな大好きです．バナナやキャッサバを発酵させて作ります．

＜Q&A＞

Q：森があるから成り立つ生活ですが，森林破壊は大丈夫ですか？
A：カメルーン政府は今，森林伐採の方に向かっていますともいえます．もちろん自然を保護する国立公園は国内にあります．しかし，多くの森林には中国からの伐採会社が入り，木を伐採して輸出しています．首都では中国から来ている方が増えてきているように思えます．バカ族も森で木を切って運ぶために雇われている人もいます．森を一番知っているのは，狩猟採集民なので伐採会社は彼らを雇いたがるのです．伐採の規模は少しずつ広がっていくように思えます．
Q：男の子も女の子もよく似ていますが，どこで性別がわかりますか？
A：調査で身体測定をしますが，女の子と男の子を勘違いしてしまうこともあります．とくに幼い子どもの場合は難しいこともあります．ある程度年齢を重ねた子どもは，胸のふくらみなどで男女を識別します．また，布を腰に巻いているのは女の子だというヒントもあります．
Q：出産はどうしていますか？
A：調査期間中に出産に立ち会うことはできませんでしたが，文献では家の中で出産するという報告があります．おばあちゃんや大人の女性たちが立会い，男性は入れないそうです．大体 18 歳くらいで結婚します．例は少ないですが，農耕民との結婚や同一クラン（氏族）での結婚もあります．基本は一夫一妻ですが，重婚もあります．月経用のナプキンは使わず，コントロールしているそうです．